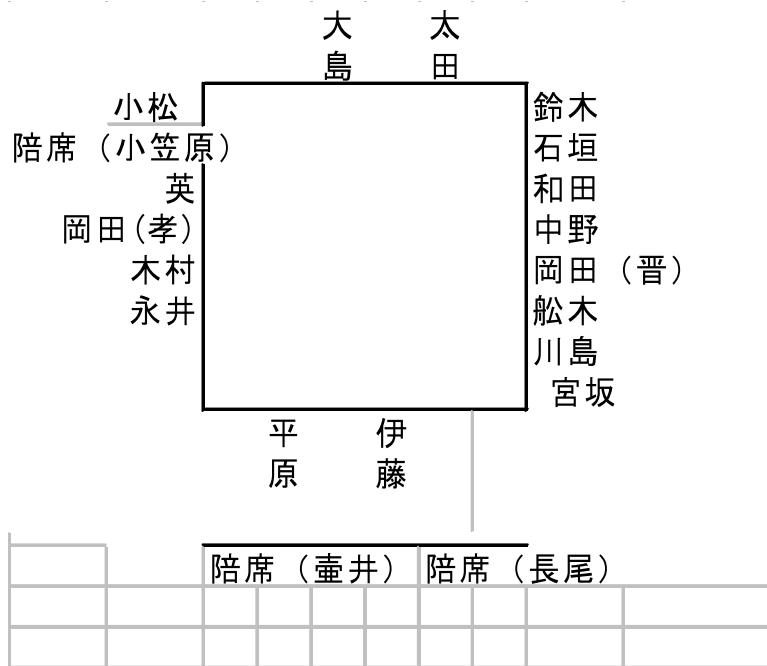


席順



日時	2009年11月22日(日) 18:00-20:00		
場所	東京ステーションコンファレンス 605A		
出席者	・大島 伸一氏 ・太田 秀樹氏 ・小松 真氏 ・鈴木 央氏 ・石垣 泰則氏 ・和田 忠志氏 ・中野 一司氏 ・岡田 晋吾氏 ・船木 良真氏 ・川島 孝一郎氏 ・宮坂 圭一氏 ・伊藤 光保氏 ・平原 佐斗司氏 ・永井 康德氏 ・木村 幸博氏 ・岡田 孝弘氏 ・英 裕雄氏	顧問 栃木 顧問 東京 静岡 千葉 鹿児島 北海道 愛知 宮城 長野 愛知 東京 愛媛 岩手 神奈川 東京	国立長寿医療センター おやま城北クリニック 鈴木内科医院 城西神経内科クリニック あおぞら診療所高知潮江 ナカノ在宅医療クリニック 北美原クリニック 三つ葉在宅クリニック 仙台往診クリニック 宮坂医院 内科伊藤医院 梶原診療所 たんぽぽクリニック もりおか往診クリニック オカダ外科医院 新宿ヒロクリニック
陪席	・小笠原 文雄氏 ・長尾 和宏氏 ・壺井 康一氏 ・伊東 政彦氏 ・宮脇氏	岐阜 兵庫 高知	小笠原内科 長尾クリニック ネクストホームクリニック 国立長寿医療センター 国立長寿医療センター

<p>議題等</p>	<p>(1) 開会 (2) 挨拶 (3) 報告事項 ○事務局より 会員の入会状況・概算収支・勇美記念財団 書籍配布・EN大塚製薬 水の救急箱無料配布 ○IT/コミュニケーション局より ホームページ・ML具体的活用状況報告 ○研修/教育局より 日本医師会の生涯教育シリーズの制作 協力 ・日本医師会H22年3月の研修会 太田・和田他演者予定 在宅医療研修教育用DVD作成中 全国在宅療養支援診療所への周知・製薬会社開設HPでのコンテンツ編集協力 その他 ○調査・研究局より ○全国各地での活動報告 東京都（英裕雄世話人）・東海ブロック（伊藤光保世話人）・栃木県、群馬県 医師会との協調 ○その他 i) 日本看護協会、日本訪問看護振興財団、全国訪問看護事業協会 三団体による「訪問看護10ヵ年計画」への協力要請 ii) 全国在宅歯科医療・口腔ケア連絡会 との協力(発足式 11月5日) iii) 厚生労働省 全国地域包括ケア推進会議 鈴木副会長出席 (11月17日) iv) 辻哲夫教授（東京大学高齢社会総合研究機構）より協力要請 v) 「在宅医療推進フォーラム」への参加 共同声明採択 vi) その他 世話人らの活躍 執筆 フォーラム開催 講演等 (4) 討議事項 i) 会員区分 事務局案 一般会員に対して特別会員枠の新設 ii) 制度への提言 ① 訪問看護師指示書改善 ② 注射薬、補液 使用制限の撤廃 ③ 厚生局 監査指導 検討会、調査委員会等の組織化 iii) 会費の自動引き落とし iv) 第12回日本在宅医学会大会 後援 v) 地域での組織化 ルール作り 他の職能団体との関係性 vi) 地域活動への本会の協力 地域の実情に応じた独自の活動 vii) 事務局の独立 viii) 企業からのサポート 公益性の原則 ix) 世話人の交代等 (5) その他 次回開催日時 (6) 閉会</p>
<p>議事等</p>	<p>(1) 開会18:00～ ・太田秀樹氏より、平成21年度第2回世話人会議 開会の挨拶を行った。 (2) 挨拶 ・顧問 小松真氏より、このように在宅療養支援診療所連絡会が立ち上がっていることを喜ばしく思う。より多くの在宅療養支援診療所に参加していただき、日本の在宅医療推進につなげて欲しい。この会で出された意見を集約し、絶えず提言して行って欲しい。 ・顧問 大島伸一氏より、政権交代に伴い国・厚生労働省も大きく動いていることを実感してい</p>

る。物事の方向付けが重要な時期であるが、在宅医療への流れは止めようがない。政治的な力がいかに働くとしても、あるべき形である在宅医療への道は普遍である。この会の先生方に今後の日本の医療の指針を示していただきたい。

- ・副会長 石垣泰則氏より、明日の在宅医療推進フォーラムにおいて当連絡会の紹介を行う。当会が日本の在宅医療をリードしていかななくては、と考えている。
- ・副会長 鈴木央氏より、東京での支援診療所連絡会の活動が少しずつ始まっている。先日の第一回の親睦会にはかなりの人数の参加があり、手ごたえを感じている。全国地域包括ケア推進会議への参加を通して、在宅医療というものがいかに国民にとって良いものであるか、を示していくことが我々の今後の活動の中で重要であると感じた。

(3) 報告事項 18:15~

○事務局より (太田秀樹氏)

- ・会員の入会状況 (資料:3 参照) 申し込み数、513名。まだ、数名という県もあるが、公募開始は8月1日、全国の在宅療養支援診療所に周知したのは1ヶ月ほどであることを考えると、順調な滑り出しといえよう。
- ・概算収支 (資料:4 参照)
- ・勇美記念財団 書籍配布 会員全員に「在宅療養を支えるすべての人へ」を配布している。
- ・EN大塚製薬 水の救急箱無料配布 予定

○IT/コミュニケーション局より (中野一司氏) (資料参照)

- ・ホームページが8月1日に立ち上がり、直接入会手続きが可能になり、一般会員を募集開始した。
- ・MLも同時に開始し、毎日活発な討論が行われている。制度の問題をピックアップできたり、地域差を確認できたり、とその意義の大きさを感じている。
- ・ITを利用し、効率的な運営を行うという目的を果たしている。

○研修/教育局より (和田忠志氏) (資料参照)

- ・全国11928ヶ所の在宅療養支援診療所に案内状を送付した。送付にあたり、全国の在宅療養支援診療所の名簿を持つことができた。世話人で必要があれば利用可能である。
- ・日本医師会雑誌特別号『在宅医療-午後から地域へ』生涯教育シリーズ78 黒岩卓夫会長が監修・編集、太田秀樹事務局長が編集協力。来年6月22日刊行予定。
- ・日本医師会「平成21年度 在宅医療支援のための医師研修会」太田・和田講演予定
- ・大塚製薬ホームページ 医療関係者向けページ「在宅療養情報サイト NS最前線・在宅患者のQOL向上に欠かせない栄養管理」の監修
- ・国立長寿医療センターと連携し、多職種共同の研修用DVD作成中である。

○調査・研究局より (川島孝一郎氏)

医療関係者を対象とした20万人程のメールマガジンにて、在宅医療の事例を配信したい。在宅医療の成功事例があれば、提出をお願いしたい。

○全国各地での活動報告

・東京都 (英裕雄氏)

11月21日 第一回東京都在宅療養支援診療所連絡会 開催 80名の会場がほぼ満席。会長:新田國夫氏 副会長:鈴木央氏・平原佐斗司氏 事務局:英裕雄氏
厚生労働省からの依頼・在宅医療の位置づけを明確にするためには、一定数以上の参加を募り、まとまったデータの集積を。・在宅医療の質を高めて欲しい。・データベース作りを。

- ・東海ブロック (伊藤光保氏) 愛知・三重・岐阜・静岡在宅療養支援診療所の顔合わせ 11月15日 東海ブロック在宅療養支援診療所連絡会 準備会 シンポジウム開催 県医師会館にて 12診療所 21名参加 連携の問題・小児重度の患者に対するレスパイトケアの問題・今後の活動について等
代表:石垣泰則氏 (静岡) 副代表:船木良真氏 (愛知) 事務局:伊藤光保氏 (愛知)

小笠原文雄氏（岐阜）高倉廣喜氏（三重）
シンポジウムは、キャンナスと共同で行った。大島伸一氏等の講演を頂いた。
講演 112 名参加、医師は 20 名程。

- ・ 栃木県、群馬県 医師会との協調（太田秀樹氏）
医師会の中に在宅療養支援診療所連絡会を組織化していく、準備中である。
- ・ 北海道（岡田晋吾氏）函館では、来週、道南在宅ケア研究会の勉強会開催予定。
札幌の状況は把握できていないが、今後協同し活動していきたい。
- ・ 岩手（木村幸博氏）11月24日 勉強会開催予定。太田秀樹氏講演。

○その他（太田秀樹氏）

- i) 日本看護協会、日本訪問看護振興財団、全国訪問看護事業協会 三団体による
「訪問看護10ヵ年計画」への協力要請
- ii) 全国在宅歯科医療・口腔ケア連絡会 発足式が11月5日行われ、太田秀樹氏 出席
- iii) 厚生労働省 全国地域包括ケア推進会議（資料：6参照）
第一回会議（11月17日）に鈴木副会長出席。
- iv) 辻哲夫教授（東京大学高齢社会総合研究機構）より、在宅医療の実践者として協力要請あり。
- v) 明日の在宅医療推進フォーラムへの参加 11団体での共同声明採択。

○陪席の紹介

- ◇壺井康一氏：高知県で在宅医療推進のための小さな会を立ち上げた。これからも、和田先生とともに活動していきたい。
- ◇長尾和宏氏：兵庫県でも会を立ち上げ勉強会の開催等を行っている。この連絡会が日本の医療の未来につながると思い、関心を持っている。
- ◇小笠原文雄氏：20年間在宅医療、16年間病院医療を行ってきた。岐阜県全体の医療を変えようと、医師の教育の会を開催している。
- ◇大島伸一氏：大きなエネルギーを持って、この会の発展を願う。

(4) 討議事項 18:50～

- i) 会員区分 一診療所で複数の医師がいる場合、また、病院の医師等の入会を妨げるものであってはならない。実情に合わせて、特別会員枠の設置が必要であると考える。

(会員区別)

- 1) 正会員：在宅療養支援診療所の管理者またはそれに準じる者
- 2) 特別会員：本会の活動趣旨に賛同する医師で正会員以外の者
- 3) 賛助会員：本会の活動趣旨に賛同する医師以外の者
 - 会員区分にかかわらず入会金・会費は同額。
 - 特別会員、賛助会員に議決権は付与されない。
 - 特別会員は本会メーリングリストへ登録。

以上、承認された。

- ii) 制度への提言（太田氏）訪問看護師指示書改善、注射薬、補液 使用制限の撤廃、厚生局の監査指などメーリングリストで多くの問題が浮上してきている。厚生局から在宅医療に関する意見が求められている。全国の在宅医療の均霑化を図ることを目的として、制度に対する問題点を取りまとめる委員会の設置が必要ではないか。

（大島氏）在宅療養支援診療所全体の底上げも必要。

- 均霑化委員会（診療報酬に関わることを中心）を岡田孝弘氏、木村幸博氏、永井康徳氏でタスクフォースを組織化することが決定。
調査・研究局と共同して行う。

- iii) 会費の自動引き落とし →承認される。

- iv) 「第12回日本在宅医学会大会」後援 →承認される。

- v) 地域での組織化 ルール作り・地域での活動・会費に関しては自由。その報告の場は

	<p>ホームページやメールリストで行うこととする。→承認される。</p> <p>vi) 地域活動への本会の協力 講師派遣などで協力していくことで承認される。</p> <p>vii) 事務局の独立 全国在宅歯科医療・口腔ケア連絡会とシェア等、現在検討中。</p> <p>viii) 企業からのサポート 公益性の原則を守った上で企業と協力し合っていく。</p> <p>ix) 世話人の交代等 会議へ欠席の場合、代理出席は、認めず。陪席は、可能だが、発言権はなし。→承認される。</p> <p>(5) その他 次回開催日時 調整 日時：平成22年2月28日(日) 15:15~17:00 (日本在宅医学会大会 in 幕張 終了後) 会場：海外職業訓練協会(OVTA)国際能力開発支援センター(千葉県幕張) 〒261-0021 千葉市美浜区ひび野1丁目1番地 TEL:043-276-0211</p> <p>(6) 閉会 (日時 平成21年11月22日 18:00~20:10 東京ステーションコンファレンス 605A) 進行役 太田秀樹</p>
資料	<p>○資料：1 一般社団法人全国在宅療養支援診療所連絡会 世話人会議 議事次第</p> <p>○IT/コミュニケーション局より</p> <p>○教育研修局より</p> <p>○資料：2 一般社団法人 全国在宅療養支援診療所連絡会 社員名簿</p> <p>○資料：3 入会状況</p> <p>○資料：4 概算収支</p> <p>○資料：5 平成21年度 第1回社員総会 議事録</p> <p>○資料：6 全国地域包括ケア推進会議について</p> <p>○日本在宅医学会大会 in 幕張</p>
事務局	<p>・岩本 佳代子</p>